

〈ヤタレイセンター (イギリス)〉

ロンドンから南西に60kmほど、ハンプシャーカントリーカウンシルに属すヤタレイ市(人口約25000人)に、2日間ホームステイをした。着いた翌日、ホストファミリーのお宅から集合し、ヤタレイスクール&センターに向かう。

=ヤタレイスクール&センター=

ここは広い敷地の中に4歳~11歳までが通う幼・小学校を隣接し、12歳~18歳の600名が通うハイスクール、図書館、スポーツホール、プール、演劇スタジオを持つ大規模な施設で、小学校以外のスペースすべてが成人学校=ヤタレイセンターとして利用されている。駐車場もとても広い。

午後6時~10時に成人学校の講座が開かれ、今年度の参加者は約1000名。

ヨガ、水泳、フラワーアレンジメント絵画といった講座から、イギリスの国家資格であるGCSE取得の講座(通常は高校で取るが、更に増やして、より良い職業についたり、いい大学に入るために取るAレベルのクラス)まで、多彩なプログラムが用意されている。

生徒が集まるのなら、どんなクラスでもやろうという意気込みで企画しており、通常は3~40人、少ないクラスでは、5人でも実施している。一回のクラスを開設するためには、20£(約4000円)経費がかかる。(内訳は15£が講師謝礼、その他は宣伝費や、受け付け等の費用)10人集まれば赤字にはならないような価格設定で参加費をとっており、1時間30分の10回コースで、14£~30£(2800円~6000円)といったところ。

資格につながるコースについては、国家予算で補助金があり、その他の講座に関してはハンプシャーカウンシルから、受講者一人につき50ペンス(約100円)の補助金が支給される。つまり、受講者が多いほど運営が楽になるが、受講者が少ないと受講料も高くなる。

講師は主に小中学校の教師で、年間70~80人が受け持っている。この謝礼の金額から察するとおり、成人教育に熱心で、ボランティア精神に富んでいないとできない。このあたり、日本のお稽古ごとで、多額の利益を得る私塾の講師とは大違いであり、公民館職員としては、うらやましい限りである。

講座の企画については、講師と、副校長、常に受講者と接している受付職員とで話し合い決めている。他の成人学校でいい企画をしていけば、真似をすることもあるとのこと。参加者の統計は特にとっていないそうだが、19歳~59歳が80%で男女比は3:1くらい。

LL教室、コンピューターの教室もあり、ほとんどが育児のために仕事を辞めた女性が再就職のために学習している。しかし、託児のシステムはない。幼稚園に子どもが通う時

間帯に、こうした講座が開けないことが、公立高校を利用している弱点であるとのことであった。

しかし、土日にもクラスはあり、プールやフィットネスセンターなどは学生のランチタイムを利用して、クラスを開くことや、朝6時30分からの早朝クラスも開設している。

また、これらのスポーツ施設は、有料で一般開放もしている。(フィットネス会員は年間150£) 1h20£でプールを借り切って講師を連れてきて教室を開くことも可能だそうだ。

ユニークなのは、学内にパブがあること。夜7時から11時まで開いているので、講座の後、仲間や講師と一杯、などということもできる。

このパブのスペースは営業していない昼間には、両親が働いている子が、放課後5時頃まで、勉強やおしゃべりをして過ごすことのできる場所でもある。まさに、施設を目一杯有効に活用している印象であるし、地域の核として機能していると思える。

このように早朝から深夜まで、学校の施設が利用されていることは、私たちからすると驚くばかりだが、それを可能にしているのは、ケアテイカーという、学校の何でも屋さんが午前6:30~午後11:00を4交替で、土日も含め毎日施設を管理(簡単な修繕、戸締まりなど)してくれているからなのだそうだ。

同じ建物の中を学生と成人が行き交い、教室や備品を共用し、また、18歳以下のために、平日夕方や夏休みクラスもヤタレイセンターとして実施しているので、受付も同じフロアに向かいあって設置されている。

私たちがお邪魔した時間は午後遅かったので、スペイン語の講座が開かれていた。ハイスクールの授業を終えた教師が、夕方からの地理の教室の準備を始めているその一方で、音楽室では学生たちがオーケストラの練習をしている。

入り口もたくさんあり、人が自由に出入りできるとても開放感のある雰囲気、日本の学校事情と引き比べて羨望のため息が出ってしまった。

＝ヤタレイセンターのプログラムから＝

| | | | |
|---------|---------------|-----|-----|
| 絵画 | 水 19:30~21:15 | 10週 | £35 |
| 外国人の英会話 | 月 19:00~21:00 | 35週 | 無料 |
| 世界の料理教室 | 火 19:30~21:15 | 5週 | £21 |
| 高齢者水泳教室 | 水 15:15~16:00 | 10週 | £16 |
| ストレス減少法 | 土 10:00~15:00 | 1回 | £16 |

=イギリスの成人教育=

イギリスは、伝統的に成人教育を重要視しており、国民は、夕方以降は何かしらしようという意識を持っている。成人教育ではお金儲けはできないと、民間企業が参入することはなく、一般市民の利益を重視している。

また、収入がなく、生活保護を受けているような人に対しては、自治体が代わりに受講料を負担している。

イギリスの教育は地方分権が徹底しており、公立学校はすべてコミュニティカウンスル（日本では県にあたる）が運営。コミュニティ補助として年間に5万£（1000万円）が支給されている。

公立校のほとんどが夕方の成人学校を開設しており、ハンプシャーでは25の学校が、同じようなシステムである。施設や設備面では、非常に有効だが、障害者などには、夕方は暗く、寒いので逆に利用しにくいのも事実だそうだ。それが、学校を利用している事のデメリットであると、残念そうに話していらした。

=ヤタレイの印象=

ロンドンには、バスで通過しただけだったので、とにかく車が多く、人が忙しそうで、東京と変わらないかのような印象しか残らなかった。しかしヤタレイは、ロンドンからわずか60km離れただけで、美しい景色と、こじんまりとした一軒家の並ぶとても静かな住宅地で、イギリスの田舎の風情を残す。住人は、アッパーミドルクラスといったところ。

庭にはコマドリや、夜明けに美しい声で鳴くブラックバードが訪れる。

車がないと生活できそうもないほど、店も少なく、郵便局は古い洋画に出てくるように雑貨屋の片隅であった。新聞もそこへ買いにいかなければならないそうだ。

私のホストファミリーは、帰宅こそ7時頃だが、かなり忙しく働く方で、しかも、私のいた2晩とも、フランス語のクラスと卓球に出掛けていた。

わずか2日間だったが、マーケットにも一緒に買物に連れていってくださり、私の拙い英語でも、親切に理解してくださり、飾らないもてなしで市民の生活の一端を見せていただけたことは、貴重な体験だった。

なお、ヤタレイスクール及びヤタレイセンターのお話しは、副校長でいらっしゃるMr. Bob Hart-Johnsonにうかがった。

通訳は、Ms. Keiko Iwatsu Thiele でした。